

この出入口のこと知ってる？

阪神高速の出入口再発見！

きしわだみなみ [岸和田南]

4号湾岸線「岸和田南出入口」



堀の南方向から見上げた美しい岸和田城。著名な建築家の池田谷久吉の設計で、桃山様式の城として再建された。別称の「千亀利(ちきり)城」は本丸と二の丸を連ねた形が糸巻きの罫「千切り」に似ているところ由来するといわれる。

江戸時代の重要拠点だった岸和田城 戦後の天守閣復興ブームの先駆けでもあった

中世の頃は「岸」と呼ばれ、和田氏がこの地を治めたことから現在の地名になったともいわれる「岸和田」。岸和田はだんじりのまちとして全国的に有名ですが、その原動力は城下町のシンボル、岸和田城に由来するといっても過言ではないようです。人々の心のふるさと、岸和田城について岸和田市教育委員会の山岡邦章さん(文化財担当)に聞きました。

大坂を守る要に位置づけられた岸和田城

岸和田城はいつ誰が建てたのか、詳しいことはわかっていません。南北朝時代、楠木正成の配下が築いたという説もありますが、それはあったとしても今の岸和田城から離れた位置で、皆みたいなものだったと推測されます。その昔の調査では室町時代後期に相対するなんらかの建造物が今の岸和田城あたりに存在したことがわかっています。戦国時代には今の城のあたりに松浦氏が居城し、織田信長、羽柴秀吉が台頭してくると秀吉の配下の中村一氏を城主に、紀州攻めの最前線に位置付けられました。

信長、秀吉の当時、紀州の根来寺は戦国大名なみの勢力があり、天下統一のためには根来衆を抑えることが重要だったのです。当時の古文書に「てんしゅ」という言葉が出てくるので、すでに城のような建物があったことが想像できます。

エッセイ 秋 季節の言葉

10月になると暑さも和らぎ、風も涼しさを増してきます。これから大阪も木々が紅葉し始め、11月になると各地の紅葉の便りが届くでしょう。大阪では大阪城公園が家族連れにも行きやすい場所かもしれません。駅から近く、紅葉だけではなく、巨石を積み上げた石垣や広大な堀が巡る特別史跡大坂城跡でもあります。

大阪城と言えは豊臣秀吉が築いた城が今も残っていると思っている人がまだいるかもしれませんが、今の大阪城は徳川幕府が再建した大坂城跡をそのまま利用した公園で、秀吉が築いた城の姿は地上に全く残っておらず、地下深くに埋もれています。

秋から始まる大坂と大坂城

いたようです。ところが、昭和60年(1985)に天守閣南東部でも自然石を野面積みした石垣が見つかり、大坂夏の陣で焼けていることから秀吉が築いた大坂城の石垣と判明しました。今は地下に埋まる秀吉の大坂城ですが、秋本番の旧暦9月1日から築城工事が始まったことが、当時の記録からわかります。

大坂城公園にはこれだけではなく、秀吉の大坂城の下に大阪の地名の初見とも言われる大坂(石山)本願寺と寺内町が埋もれています。本願寺は秀吉が大坂城を築くよりも50年も前にあった浄土真宗の寺院で、戦国大名をも凌ぐ軍事力を誇る一向一揆の本拠地でした。当時、武家による国内統一を目指していた織田信長と戦い敗れ去るのですが、ここに本願寺の第8世宗主蓮如が本願寺の基礎となる坊舎を建設したのが「明応第五秋九月廿四日」とあり、秋が深まる頃に建立されています。

この秋、紅葉を愛でに大阪城公園を訪ね、遠い昔の歴史に浸るのも良いかと思えます。

松尾信裕(元大阪歴史博物館研究主任)

まつのおのぶひろ
1976年、立命館大学産業社会学部卒業。1976年から難波宮址調査会・大阪市文化財協会で埋蔵文化財発掘調査員(2007)、2007年から大阪城天守閣館長(2014)を経て2014年から大阪歴史博物館研究主任、2020年、近年の著作に「近世における大坂市街地の拡大」大阪歴史博物館共同研究成果報告書11(2017年)、「大坂城」木宏・福島克彦編「近畿の名城を歩く」大阪兵庫和歌山福井山梨川文館(2015年)など多数。



※[大坂(大阪)]の表記について、本誌では、江戸時代までは「大坂」、明治以降は「大阪」と表記しています ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、記載内容の変更や中止となる場合があります

HANSHIN HIGHWAY 2021 AUTUMN VOL.223 CONTENTS

エッセイ●季節の言葉
秋から始まる大坂と大坂城 松尾信裕

この出入口のこと知ってる? ●阪神高速の出入口再発見!
01 きしわだみなみ [岸和田南] 4号湾岸線「岸和田南出入口」
江戸時代の重要拠点だった岸和田城。戦後の天守閣復興ブームの先駆けでもあった

関西の名工
04 小嶋護さん(京地張り提灯職人)
丈夫で長持ちする京地張り式提灯。伝統の製法が、今、新たな灯りを生み出す

教えてセンセイ
06 幸田正典さん(大阪市立大学大学院・理学研究科 教授)
魚は、驚くほど賢い! 4億年前に魚類で進化した知能や思いやりが、私たち人間に受け継がれている可能性があります

08 阪神高速の取り組み(阪神高速「トル大阪」)
徹底したお客さま目線で料金収受業務にあたっています

ちょっと行ってみたい関西うまいもん
10 弥平とうがらし ●滋賀県湖南市

Hanshin Highway TIMES
12 「阪神高速プレゼントドライブ川柳」を開催! / 阪神高速道路お客さまご利用状況調査 / 国際人権デー / 1号環状線(北行)リニューアル工事終日通行止めのお知らせほか

表紙イラスト(岸和田城天守閣から4号湾岸線「岸和田南出入口」付近を望む) / 青山大介: 昭和51年神戸生まれ、都市の鳥瞰図絵師。代表作みなと神戸バスズアイマップ他、神戸市の津波避難情報板に採用。



★紀州街道

府道204号線から1本西側にあり、街道沿いの本町あたりには城下町にふさわしい昔の町家が残っている。むしこ窓のある中二階や出格子などの伝統的な建物が点在しており、風情を感じることのできる歴史街道としてまちあるきを楽しむ人が多い。街道途中にある「まちづくりの館」は見どころの案内や休憩スポットとして利用されている。



★蛸地蔵 天性寺

「蛸地蔵縁起」によると紀州・根来衆に攻撃され、落城寸前の岸和田城を大蛸に乗って現れた地蔵菩薩が救ったと伝えられている。その地蔵をお祀りしているのが天性寺、通称「蛸地蔵さん」。境内には一切タコを食べずに願をかけるという、ユニークな蛸絵馬が奉納されている。秘仏の蛸地蔵は毎年8月23日と24日に行われる地蔵盆の「千日大法会」において開帳される。



★岸和田だんじり会館

岸和田だんじり祭のすべてがわかる博物館。現存する最古のだんじりや木彫の匠、全町の法被と提灯など豊富な資料を一堂に展示。大型マルチビジョンによる祭礼の映像は迫力満点である。だんじりに乗っている気分が味わえる3Dビジョンや体験コーナーなどもあり、いつでも岸和田だんじり祭が体感できる。



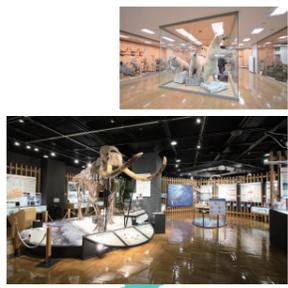
★蛸地蔵駅

南海本線の「蛸地蔵駅」は1925（大正14）年に建築された南欧風の駅舎で、南海本線ではこの時期の駅舎はほとんど残っておらず、貴重な存在になっている。壁面には蛸地蔵伝説を題材にしたステンドグラスがはめこまれており、夜間は光輝く図案が映し出される。



★きしわだ自然資料館

大阪南部の自然を紹介する資料館。岸和田で発見された「キシワダワニ」の化石の展示をはじめ、当館発祥の人気学習プログラム「チリメンモンスター」のコーナーや簡単な実習体験ができるスペースは子どもたちに大うけ。開館のきっかけとなった地元コレクターから寄贈された野生動物のはく製は圧巻もの。



★自泉会館

岸和田紡績（現ユニチカ）の2代目社長・寺田基吉が会社の倶楽部施設として1932（昭和7）年に設立した建物。その後岸和田市へ寄贈。音楽ホールやギャラリー、会議室など文化活動の場として一般開放されている。関西の名建築家・渡辺節が設計した近世パニッシュ風の建物は登録有形文化財に指定。イベントがないときは館内を見学できる。



★自泉会館



★岸城神社(きしきんじや)

古くより岸和田村の産土神 天照皇大神(アマテラスオオミカミ)、京都八坂神社より勧請された兼盛鳴尊(スサノノミコト)、品陀別命(ホンダワケノミコト 八幡神)をお祀りする岸和田城下の鎮守として信仰されてきた。岸和田祭は、岸城神社例大祭(9月14日・宵宮祭、9月15日・例大祭)の神賑行事で、氏子15台のだんじりが岸和田城の周辺を曳行し、宮入を行う。岸和田城が千亀利(ちきり)城と呼ばれる事から、契り(えんむすび)の神としても信仰されている。



★五風荘(ごふうそう)

岸和田城二の曲輪にあった「新御茶屋」の跡地に、旧寺田財閥二代当主の別邸として1929（昭和4）年から10年の歳月をかけて完成させた。敷地は約2500坪で、回遊式日本庭園を有する近代和風建築物である。表門「南木門」には奈良の東大寺塔頭中性院表門を移築した。岸和田市指定有形文化財に指定。現在は庭園の散策と食事が楽しめる和風レストランとして親しまれている。



この時代の岸和田城にまつわる伝説に蛸地蔵というおもしろい昔話があります。中村一氏と根来衆との戦いにおいて、岸和田城が攻め込まれたのは事実で、それを物語にしたのでしよう。地元、天性寺に伝わる「蛸地蔵縁起」の概略はこうです。「五千程度の兵力しかない岸和田城の殿に対し、根来衆は数万の兵力で押し寄せ、岸和田城は落城寸前だった。そのとき、大蛸に乗ったひとりの法師と数千の蛸が海からあらわれ、城の危機を救った。殿は法師の行方を探したがわからなかった。ある晩、殿の夢枕に法師が立ち、自分は地蔵菩薩の化身だと告げ、城の堀から無数の傷を負った地蔵が発見された。『大阪湾は良質のタコの産地なので、身近なタコを素材に、人知を超えた神秘を表現したのかも知れません。』

1597（慶長2）年、豊臣秀吉の叔父にあたる小出秀正が岸和田城主となり、5層の天守があげられました。この頃になるとそれまでの戦闘用の城から織豊系城郭と呼ばれる権威の象徴的な城へと建築のスタイルが変わり、岸和田城もそのような近世城郭として整備されていったのです。岸和田城の特徴は領地の規模を超えた城であったこと。わずか5万石にすぎない領地に30万石の藩に匹敵する壮大な城だったのです。根来衆の勢力は衰えましたが、紀州勢力をにらむ存在として岸和田城が重要視されたのでしよう。

江戸時代になると尼崎城とともに、幕府直轄地の大坂を守る要として、大坂城に何かあったときは尼崎と共に駆けつけるという役割を担いました。大坂城は北側に河川、東側は沼地、西側には海というふう天然の要害がありますが、南側には防御するものがなく、豊臣時代にも巨大な惣構えの堀が設けられたものの、これでは不十分でした。家康が大坂城を攻めるときも南側に主力部隊を置き侵攻しています。つまり、岸和田城は大坂城の弱点である南側をカバーするための城で、22里離れているとはいえ、一日でたどり着ける距離です。例えば大塩平八郎の乱のとき、岸和田城からも鎮圧隊が出兵しています。

岸和田城の天守は1827（文政10）年の落雷で焼失し、以後再建されることなく、維新後の廃城令により、石垣と堀以外の城郭施設は破壊されました。伏見櫓だけでも残っていたら国重要文化財になったはずで、残念でなりません。1930（昭和5）年、城跡一帯は千亀利公園という名称で一般に開放され、戦後が、紀州家5代目の殿様だった徳川吉宗が將軍になると、紀州家の家格が上がって、6代目の殿様からはデモンストレーションの意味で総勢2600人という大行列で紀州街道を通り、大坂、京都経由で江戸に向かいました。権威を見せつける豪華な参勤交代をきっかけに、田舎道だった紀州街道が整備され、街道沿いに今のような城下町が発展したのです。



写真上／城内では城と城下町に関する貴重な資料を展示するほか、ここで結婚式も挙げられる。天守閣の手前にあるのが重森三玲氏の設計、作庭による回遊式枯山水庭園だ。天守閣入場料300円(大人)、月曜休。TEL 072-431-3251。写真右／天守閣最上階から見た庭園のようす。諸葛孔明の「八陣法」をテーマに石組みは全方向から鑑賞できるよう設計された。これまでの日本庭園にはなかった独創的なデザインが高く評価され、国指定名勝に認定されている。



写真下／岸和田市教育委員会 生涯学習部郷土文化課・文化財担当長の山岡邦章さん。「岸和田城は庭がセットであり、城跡を残すきっかけになったのもこの庭。後世に残る名庭園を造ることが城跡を守る原動力になったんです。岸和田は大規模な空襲に遭わず、経済的な被害が少なかったため、戦後すぐでも天守の復興のための多額の寄付が集まりました。まちへの思いはだんじりのパワーにもあらわれていますね」

※歴史考証により、天守と天守閣を併記しています。

「岸和田は日本を体感できる「ちようどいい」ところ」

当初、岸和田城の天守閣は市民に役立つ施設図書館が設けられましたが、現在は貴重な歴史資料を展示しています。岸和田の住民は生活圏に城があるので、いつでも城を眺め、城を感じられるのは羨ましいといわれます。日本通の外国人観光客に聞くと、閑空で降りてまず泊まるのは岸和田。田舎と街が混在していて、城などの歴史的遺産があり、海や山の豊かな自然にも恵まれた「ちようどいいところ」なんだそうです。コンパクトに日本を体感できる岸和田の魅力を多くのの人に知ってほしいですね。

は堀を埋めて児童遊園に作り変える計画が持ち上がりました。しかし、市民からは城下町にふさわしい岸和田城を復興させたいという声が高まり、1954（昭和29）年に天守閣を再建することができました。戦後の天守閣復興ブームの先駆けであり、富山城と同時期に復興しています。

は堀を埋めて児童遊園に作り変える計画が持ち上がりました。しかし、市民からは城下町にふさわしい岸和田城を復興させたいという声が高まり、1954（昭和29）年に天守閣を再建することができました。戦後の天守閣復興ブームの先駆けであり、富山城と同時期に復興しています。